

# 会議録

会議名	平成28年度 第1回 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会
日時	平成28年10月7日(金) 午後7時 ~ 8時30分
場所	八王子市役所 本庁舎 702会議室
出席者氏名	参加者 芦川正明、石川敏之、伊藤史子、大島紀代、落合隆、栗本正男、佐々木健、高橋新也、中庭光彦、沼崎明大
	事務局 木内基容子(都市戦略部長)、立川寛之(都市戦略課長)、今井明(都市戦略課主査)、実森将人(都市戦略課主任)、渡邊さくら(都市戦略課主事)、荒船翔哉(都市戦略課主事)
	その他市出席者 小山等(総合経営部長)、立花等(市民活動推進部長)、小澤篤子(子ども家庭部長)、大西健二(産業振興部長)、田中正雄(都市計画部長)
欠席者氏名	なし
議題	1. 開会 2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について 3. その他 4. 閉会
公開・非公開の別	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	なし
配付資料名	参加者名簿 資料1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート 資料2 数値目標、KPI一覧(実績値が基準値以下であるもの)
会議の内容	別紙のとおり

## 1. 開会

《新規参加者紹介》

【事務局】

（人事異動等による新規参加者の紹介及び挨拶）

## 2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

《説明》

【事務局】

（配付資料1及び2についての説明）

《質疑》

【栗本氏】

- ・今回、配付資料の中には実績値が向上した指標についての分析が記載されていない。評価を行うためにはそのような資料も必要。

【石川氏】

- ・活動実績の列挙のみでは、評価を行うことが出来ない。全ての指標について分析を示すことが必要だと思う。

（事務局から説明）

- ・今回、初めて総合戦略の評価フェーズに入る。事務局としても皆様に評価をいただくためにどのような資料が必要であるか知りたい。今のようなご意見を頂けるとありがたい。次回以降はご意見を踏まえて資料を作成する。

【伊藤氏】

- ・市民の状況に関するものは、全て世論調査が実績値の元データなのか。
- ・総合戦略の計画期間が5年である中で、目標値の見直しは5年後まで行わないのか。

（事務局から説明）

- ・実績値の元データは世論調査がメインだが、各所管でデータを取得しているものもある。基本的に、定性的なものは世論調査、定量的なものは所管データである。
- ・目標値の見直しについて、大きく変えることはあまりないが、2～3年で目標を達成するものも出てくると考えられる。そういったものの中には、さらに上の目標を目指すべきものもあると思う。

【伊藤氏】

- ・資料2の中で、「保育等待機児童数」が基準値よりも実績値が下がったことになっているが、待機児童が減っているということなので、本資料に記載するべきものではないのでは。

（事務局から説明）

- ・ご指摘のとおり誤りである。

【芦川氏】

- ・資料の表現・見せ方について、活動実績としてあげられているものが、当初から想定していたものなのか、当初は考えていなかったものなのかが分かるようにした方が良い。

- ・取り組みの内容として、八王子市だけで実施する方が良いものなのか、他の主体が実施する方が良いものなのかが分かるものは記載してほしい。八王子市ならではの取り組みであることが分かるようにしてほしい。

【高橋氏】

- ・「安心して子育てができていると感じている市民の割合」について、市政世論調査報告書には世代別の回答について記載があり、さらに分析を深めることができるのではないかと感じた。

【大島氏】

- ・八王子市は体験学習や自然を活かした活動など様々な取り組みを行っている。良い取組も多いのだが、周知が上手くいっていないと感じている。ホームページも、かわり映えがしないし、なかなか情報にたどりつかないと感じる。そこを工夫してほしい。
- ・先日、新聞記事で八王子市が鎌倉市に次いで「住みたいまち」の2位になったと掲載されていた。子育てのしやすさや、自然環境が評価された様子。もっと八王子市の良さを知ってほしい。市には、魅力をもっと発信してほしい。

(事務局から説明)

- ・情報発信については、来年1月に市ホームページを刷新し、どこに何が掲載されているのか分かりやすい形にする予定。併せて、市制100周年の特設サイト及びシティプロモーションの特設サイトを開設する。
- ・シティプロモーションの特設サイトは、実際に住んでいる方から情報発信してもらい、市民の顔が見えるようなものにしていきたい。
- ・また、市長の記者会見なども通じ、積極的に情報を発信していきたい。

【栗本氏】

- ・資料1の「市民活動支援」の中に、「はちコミねっと」の運用を開始した旨の記載があるが、これはどのような趣旨で開始したものか。

【市民活動推進部長】

- ・市民団体など、市民活動を行っている方が直接書き込みをしていただけるコミュニケーションの場として開設した。まだ立ち上げたばかりで、PRも進んでいないことからアクセス数に課題があり、現状ではコミュニティに資するものと言うよりは、NPO等の団体が個別・専門的なやり取りをしている状況にある。

【栗本氏】

- ・先ほど意見があったように、知りたいことがすぐに見られるということにつながるものになれば良いと思う。

【沼崎氏】

- ・八王子市は創業支援が充実していると感じている。「新設事業所数の伸び率」について、都と比較をするのであれば、都の数値が伸びている要因をしっかりと捉えて分析した方が良い。
- ・圏央道の開設により創業者も増えており、都心や他地域から企業が進出したいと思うような情報発信が必要だと感じる。

【産業振興部長】

- ・飲食やコミュニティビジネスの創業が多く、IT関連企業のような先端技術分野で都心に比較して伸びが低調であると感じている。
- ・企業誘致では市の魅力を感じていただいているので、今後も創業支援についても魅力を感じてもらえるように取り組んでいく。

- ・コミュニティサービスへの支援についても取り組んでいく。

【落合座長】

- ・企業誘致については、どのような状況か。

【産業振興部長】

- ・みなみ野や戸吹の工業団地は有力な資源であり、企業の研究所等が集積している。戸吹は全て埋まっている。また、みなみ野も規模が大きな区画はほとんど埋まっている。
- ・必要な敷地の規模が小さい企業には、まちなかやニュータウンの中でも小さい区画に立地してもらっている。
- ・市としては、現在新たな用地の確保に向けて取り組んでいる状況。

【都市計画部長】

- ・中央道八王子インター北の用地には、イオンが出店予定。周辺地についても、都市計画道路の整備と並行して整備が進んでいく予定である。
- ・川口地区の物流拠点整備事業は環境評価も進んでおり、今後組合の設立認可が得られる予定。全てが完成するまで待つのではなく、完成した部分から順次企業を誘致していく予定。
- ・多摩ニュータウンについても、多摩美術大学近隣の区画が最後の都による売却地となる。市としても、用途地域を商業系の用途に変更し企業誘致につなげていく考え。

【石川氏】

- ・総合戦略の重点ターゲットである若年層についての分析が実績値の中に見られない。
- ・農地バンクの利用件数が増えていないようだが、今後はどのように取り組むのか。
- ・道の駅の利用者を増やすためには、イベントの開催よりも販売する商品の方が重要であると思う。現状では他県産の野菜も一定割合販売しているが、この点について見直しが必要ではないか。

(事務局から説明)

- ・若年層の状況については、市政世論調査で世代別の集計を行っていることから、今後分析していく。

【産業振興部長】

- ・農地バンク制度の課題として、需要は大きいが生産が伸びないということがある。農家側の意識として、一度土地を貸すとなかなか返ってこないのではないかとイメージを持っている。
- ・農業経営基盤強化促進法による利用権設定のように、貸出期間満了により土地が返却されるしくみもあることから、制度の周知を図っていく。
- ・道の駅については、地元の農産物についてPRすることが一番の目的である。一方で、一定の来客を得るためには、それなりの品そろえが必要であり、他県産品も販売している状況。
- ・指定管理者の切り替え時期でもあるので、次の管理者に対しても道の駅が担う役割についてしっかりと伝えていく。

【石川氏】

- ・川口地区物流拠点整備事業については環境破壊を懸念する意見もある。一部住宅用の用途が設定される区域もあるようだが、人口が減少していく中で新たに住宅用の用途を設定する必要があるのか。

【都市計画部長】

- ・事業について様々な意見があることは承知している。自然環境や生態系に配慮しながらすすめていく。

- ・住宅用途についてだが、予定区画整理内に住宅があり、換地処分として住宅街区を建設する。コミュニティとして成り立つために必要な規模を確保するため、住宅の建設も可能な用途としている。
- ・人口減少が進むと空き家も増え、空き家の有効活用や、更地にして地域で使うとか検討していくことも必要。人口減少の中でどのような都市の姿を目指すべきであるかは、市としても大きな課題として捉えており、今後も検討していく。

#### 【中庭氏】

- ・数値目標の中には、5年間の早い段階で達成するものもあれば、後半になって数値が上昇するものもある。事業ごとに、目標を達成するためには現時点でどの程度の実績値が必要であるが、というような意識をもつことが大切。
- ・保育待機児が、受け入れ枠を増やすことで減少した一方で入園希望者も増加している。良い傾向にあるので、今後も重点的に取り組んでいくことが必要。
- ・住宅に対するニーズは人それぞれであり、新築では無く空き家を求める人もいる。空き家のマッチングをどのように行うべきであるか、もう少し踏み込んで考えることが必要ではないか。

#### （事務局から説明）

- ・数値目標は、最終目標に向けて正比例的に数値があがっていくものだけではない。目標値は固定的に考えないで、時期を見て考えるべきタイミングによっては状況が変わるため、変えられるものは変えていきたい。

#### 【都市計画部長】

- ・空き家対策については、市と不動産業界、NPOが入った協議の場を設置し、対策に向けた議論を進めている。国や都の制度で活用できるものがあれば使っていきたい。

#### 【佐々木氏】

- ・都心と比較すると八王子に関するニュースは無いと感じる。八王子というと都心から遠いイメージがあるが、そんなことは無い。ニュースを日本の中心地である都心に届ける術を我々も模索していきたいと考えている。
- ・まずは、八王子に来てもらうための施策が必要。八王子に触れる機会をいかに増やすか。来てもらい、良かったと思ってもらうことが必要。
- ・千葉では道の駅をレジャー施設化している。小さい子どもを連れて行けば食事も遊びも満喫できる。子どもから親まで満足できるものを体験させることが大切。
- ・八王子が遠いというイメージがあるのであれば、それを上手く活かして市内で一日完結するという形が良いと思う。高尾山に来て吉祥寺で食事をするのではなく、ここもある、ここもあると集約できるまちになってほしい。来てもらった人に色々まわってもらうということ。
- ・映画の舞台になるなど、小さなきっかけでその場所が聖地化し情報が広がっていくこともある。

#### 【産業振興部長】

- ・観光課では色々な情報発信を行っている。従来型のものでは無く、ストーリー化して発信することが大切だと感じている。高尾山に来た人が、市内を色々まわってもらえるような情報発信を強化していく。
- ・ここで、八王子市は北条氏の縁から小田原市、寄居町と姉妹都市になった。城を活かしてストーリー化し、色々まわってもらうことも重要であると思っている。

- ・今後MICEの取組みを進めて行くなかで、イベント等の目的をもって訪れた人にできるだけ市内に泊ってもらい、高尾や滝山を巡ってもらうことが大切だと考えている。ご意見は参考にさせてもらう。

【石川氏】

- ・現状、市全体を案内することができる観光マップが無い。必要だと感じる。

【産業振興部長】

- ・現在配布しているパンフレットでは、「はちまるガイド」というパンフレットが総合的な案内を行うメインのもの。市内を巡ってもらうための地域のマップはあるが、全体的なマップは無いので、検討していく。

【中庭氏】

- ・全国の総合戦略を見ると、観光が大事だという視点はそのとおりだと思う。しかし、観光客が増えると定住者が増えるかというと、そうでは無い。
- ・「観光」と、「定住」の間にある「滞在」の段階にある人に市の魅力を感じてもらうことも大切。

### 3. その他

《説明》

【事務局】

- ・本日いただいた意見を参考とさせていただき、今後の取組みに活かしていく。
- ・次回については、28年度の取組みについて評価をいただく場としたい。日程等については改めて調整する。

### 4. 閉会